

# ごめんください 前田小学校

昨年と比べ残菜が半分近く減った前田小。なぜ？  
1月30日、前田小・佐藤校長先生を訪ねました。

なぜ、残菜が半分近くも減ったのですか？



佐藤校長先生

うーん、なぜかなあ。去年あたりから教員全体に残菜の事についての意識が高まっていたのは事実ですね。

そこで、1年生担当の大村先生、6年生担当の森田、市川、両先生を紹介していただき、お話をうかがいました。



色々な実践ができました。なるほど、個々の先生方が、それなりに工夫され、自主的に子供達が食べて、集った結果がデータに表われたのでしょう。そして、どの先生方も決して子供に強制はしたくないといわれます。少しく満腹する子もいるのですから。楽しく食べて、結果として「食べられた」ということでしょうか。

それにしても、給食センターで一生涯懸命作ってくださった給食ですが、食器洗い機使用のため、器がトレイだったり、運ぶ間に「冷めて」しまったり、授業時間の関係で食べる時間は正味20分？位になることなど・・・なかなか難しい問題もありますね。

午後4時にお訪ねし、話が終わって校長室を出る時には、うす暗くなっていました。校長先生は蛍光灯をつけて、言われました。「省エネをしています、わかりますか？」天井を見ると、灯りがついていたのは半分の列の蛍光灯だったのです。一さすが！(M.T)

## そのおもちゃ捨てないで〜！ おもちゃ病院あきる野

平成16年4月に全国組織である「おもちゃ病院連絡協議会」に登録され、「おもちゃ病院あきる野」が発足しました。

おもちゃの無料修理を通じて、子供たちに「物を大切にすること」を育む事と、活動する会員の「活力の向上」を図るなどを目的とし、女性を含む12名のドクターで活動しています。こわれたからすぐに新しいおもちゃを買い与える、使い捨ての考え方を直してあげてはどうか。おもちゃも立派なりサイクル品です。

院長の坂路行男さんにお話を伺いました。「ボランティア団体として『あきる野市社会福祉協議会』に登録して活動していますが、まだまだ知名度が無く存在を知らない方が多数だと思えます。活動費は会員からの会費でまかない、手弁当での活動です。移動病院を開設するにも会館等施設の利用料を負担しなければ開院できないという状態です。

多くの皆様に利用をして頂き、修理してまた使う(使える)という物を大切にすること(もったいない!)を定着させたいと思っています」とのことでした。

毎月第2、4土曜日は「秋川ふれあいセンター」で、その他各地区会館等に移動おもちゃ病院を開院してい

## 実践例

- 先生が配る**  
残った物を、子供の食欲に合わせて先生が配る。
- おにぎりに**  
先生がラップと塩を用意して、子供達が自分でおにぎりにして食べる。おにぎりになるとよく食べる。
- 他のクラスに声かけ**  
6年生はよく食べるので、他クラス、他学年にも余っていたら、もらいにいく。
- 先生のこぼかけ**  
野菜嫌いの傾向があるので、「これ食べるとピーマンマン？になれるよ」(低学年に)などのこぼかけをする。

**読み聞かせで**  
週一度の朝、読み聞かせをしているお母さんたちが、「へらすぞう」記事を読んで、『ぜったいたべないからね』(フレーベル館)一物の見方を変えると、嫌いな食べ物が食べられるという話を子供達に読んだ。

**完食パーティ**  
6年生のあるクラスは、全部食べきってしまったことがあった。すると、子供たちから自然に拍手がおきた。それは以前、地図を広げて、飢えている人々の事を学んでいたからだ。先生が「いいことだね」と言う「完食パーティをしよう！」の声。別の日に、学年として「完食パーティ・ホットケーキ作り」が行われた。それ以降、4回ほど「完食」があったとか。



まず、ブランド高級品以外の腕時計等の電池交換(電池代は実費)もサービスで行なっていますので、是非一度利用してみてください。

またホームページでは、ドクター養成講座や開院スケジュール案内、接着剤・電池等の上手な使い方など盛りだくさんの情報が掲載されています。(H.N)

詳細については、下記アドレス参照  
院長 坂路行男 TEL/FAX 042-596-3597

<http://www16.plala.or.jp/toy-hospital/>

**編集後記**  
市役所市民コーナーで、広報メンバー6~7人が頻りに集まり、カンカンガクガクの議論を交わします。意見がまとまらず、4時間以上かかることもしばしば。それもこれも、この「へらすぞう」を多くの方に読んでいただきたいがため。「へらすぞう」を読まれた方はぜひ、お友達に広めていただきますようお願いいたします。(M.T)

# へらすぞう

第5号 2006年3月

げん人くん へらすゾウ

あきる野ごみ会議は、市民・事業者・市の3者が協力して活動している団体です。



## ごみ会議'レジ袋削減・マイバック運動'始動

昨年12月2日(金)・3日(土)、あきる野とうきゅうの協力を得て、入口3ヶ所で『買い物はマイバックを持参してレジ袋を減らしましょう』と、呼びかけを行いました。

初めての試みでしたが、ほとんどのお客さんがこころよく呼びかけのピラを受け取り、「私もマイバックを使っています」「がんばってください」「ごろうさま」と声をかけてくださる方もいました。

また私たちの呼びかけに、わざわざマイバックを駐車場へ取りに戻られた方もおり、かなり多くのお客さんに「マイバック持参での買い物」が定着していることがわかりました。中には英国を旅行した折に、お店で「レジ袋をください」とお願いしたらげん顔で高額なレジ袋代を要求された体験談を話してくださった方もいました。



## 今月は5店舗に拡大PR

マイバック運動を更に拡大すべく、1月26日(木)、市内大手スーパー5社(アルプス、いなげや、オザム、とうきゅう、パーク)に呼びかけ、市役所にて各代表者の皆さんと打ち合わせを行い、熱心に討議しました。より効果をあげるため、事前にレジの後ろなどにポスターを貼りチラシを置いたらどうか、配布するチラシは刺激的な表現を使うなどの意見が出されました。

会議で話されたことを参考に、本年第1回のキャンペーンを、3月2日(木)から12日(日)にかけ、市内5社5店舗でそれぞれ2日間延べ10日間にわたり呼びかけを実施しました。今後は運動を更に拡大し定着させるため、4月に今回の実施結果について各店舗代表者を含めた打ち合わせ会議を開催します。その上で市内の協力団体やボランティアに呼びかけて運動を展開する予定です。

## レジ袋有料化など国が検討

家庭からごみとして出されるレジ袋の使用量削減のため、法律改正が議論されています。事業者には無料配布の抑制(消費者にとってはレジ袋有料化か?)などが盛り込まれた容器包装リサイクル法の見直しが行われております。買い物はマイバックを持参し、レジ袋を断ることが、限りある石油資源の節約になる身近な環境活動です。いつもマイバックを持ち歩くことを習慣にしましょう。(Y.S)

あなたにとってごみとは何ですか

# ごみを楽しむ

あなたにとってごみとは何ですか

**無駄なもの**  
40代男性

**不必要なもの**  
自分の意識の中で必要でなくなったと判断した瞬間からごみとなる  
40代男性

**毎日できるもの**  
60代女性

**何回でも使い回した後に残ったもの**  
60代女性

**減らしたいもの**  
包装・パッケージ類はすべてごみになる  
40代女性

**なくなるとスッキリするもの**  
20代女性

**自分がリサイクルしないもの**  
40代女性

**厄介な存在**  
人間が生活している限りごみは付き物これをいかに上手に減らす生活を心がけるか  
70代男性

**ごみは出ません工夫してます**  
70代女性

**ゴミを楽しむ**  
ジャーナリスト 矢崎泰久

廃物利用が奨励されてきた時代に育った私は、あらゆるモノに対して価値を見つけたる努力をし続けてきたように思う。つまり、この世には不要なものはないという認識から出発している。食料にしても、基本的には無駄にしないという覚悟がある。かつては大根の葉っぱだろと、柿の皮であろうと、いろいろ工夫して胃の中に納めた。軽々にゴミのレッテルを貼らないという努力によって、どんなものも役に立った。ゴミが急速に増えたのは社会が豊かになった結果ではあるけれど、その根底には拝金主義による墮落があるに違いない。耐震偽装事件にしても、ライブドア事件にしても、基本的には金喰食たちの犯罪にすぎない。視点を改めてゴミを楽しむ姿勢を持てば、そこに新しい価値観のようなものが生まれてくる。余分なゴミを出さないような生活こそが、私たち本来の生き方だろう。こう考えた考えなしに、便利とか効率ばかり追求すれば、社会は暗黒の闇に埋もれてしまう。

**歴史と生活 そのもの**  
50代女性

**大きな可能性を持った宝**  
清潔で快適な資源循環型社会システムを構築していくことで、ごみが宝に変わっていくからです  
田中市長

**人間の文化を写し出す鏡**  
科学・工業・技術・経済状態・モラル等あらゆる文化が見えてきます  
西秋川衛生組合 T氏

**ごみの分別 私にとっては頭の体操**  
60代女性

考えてみよう！  
自分にとって本当に必要なものってなんだろう？

**私の座右の銘はものを集めず**  
70代男性

**快適生活のパロメーター**  
ゆったり過し健康な毎日を送っているとごみは出ない  
60代女性

**生ごみはたのしい**  
生ごみを庭に埋めて芽が出て、葉が出て花が咲き実が成ることもある  
60代女性

**フリーマーケット 楽しいよ～子供服交換しあって仲間づくり**  
30代女性

**ごみ川柳**  
詠み手 知事 宇のまじろ

あこの古着の山 若い頃のみえのつけ

お互いになりたくないね 粗大ごみ

目の前のごみがなくなり ああスッキリ 未練あるもの何もなし

世の中の先行き不安が ごみ増やす

あなたにとってごみだけだと わたしにとっては安定剤

われひとり 生きのびたい 防災グッズに埋もれてる やせたらと未練残して タンスのこやし

投げ捨てふ 古き衣類をながめれば 惜しむ心又よみがえり

ああまだ 捨てられない この私

いつか役立つという 思いがごみの山

満たされたい 衝動買い

他人のことは思えませんが なりそでこわいごみ屋敷

ごみを減らすよい方法はないの？

もったいないの精神で私たちの家庭から出るごみの量を減らすにも限界があります。しかも、努力しようにもできない（時間的、体力的など）人がいます。よい方法はないのでしょうか？それが「拡大生産者責任」です。税金で回収するのではなく、生産する側の責任でごみを処理することを義務づけることです。メーカーが回収しやすいものを使ったり、回収ルートを確認するしくみができあがるからです。

## ものを使いきる江戸時代に学ぶ

江戸時代は完全なリサイクル社会だった。あらゆる資源・資材が貴重だったため、徹底的にリサイクルされた。ものを作り出すことがたいへんだったから、ものをどんどん捨てるなんてもったいないことはできなかった。江戸時代の生活にもどることはできないが、学ぶことは多い。江戸時代には大勢の専門の職人が、リサイクル業（古物の下取り・修理・再生）で生計を立てていた。

提灯の張り替え、錠前直し、鋳かけ、瀬戸物の焼き接ぎ、籬屋（たがや）・鏡研ぎ、紙くす買い、古着屋、傘の古骨買い、湯屋の木拾い、ろうそくの流れ買い、ごみ取り、肥汲み、灰買い。



参考『大江戸リサイクル事情』 石川英輔著 講談社文庫